



きず（創傷）の治療

「切り傷」や「すり傷」などの創傷（しょう）の治療法はここ10年で大きく進歩しています。以前は消毒薬で消毒し、乾燥することが常識でした。しかし、最近は消毒薬を使わず、洗浄と被覆材（きずをおおう材料）による湿潤（うるおい）療法に変わってきています。

○消毒薬について

以前は化膿（感染）を防ぐ目的で傷を消毒していましたが、



- (1) 消毒薬は傷を治そうとする皮膚の細胞に害があること
- (2) 消毒薬で細菌を完全になくすことができないこと
- (3) 皮膚に少し細菌がいても傷は治っていくこと

などが分かってきて、消毒することで傷の治りが遅くなるとされています。

消毒よりも、傷にいる細菌や異物（砂やガラスなど）を洗い流すことが感染を減らすことから、水道水などを使って傷を洗います。しかし、不十分な洗浄は感染の原因となるので、深い傷などで痛みが強く洗浄できない場合は局所麻酔をして洗浄・ブラッシングをします。

○きずの乾燥

けがをすると傷から出血して、それが固まって痂皮（かさぶたのこと）をつくりまします。皮膚の細胞は乾いてしまうと死んでしまいます。そのため、かさぶたに守られたその下の乾きにくい部分で何とか細胞を増やして治そうとします。しかし、かさぶたは剥がれやすく、剥がれると細胞が乾き、傷の治りは遅くなります。

そこで、傷を乾燥させない湿潤（しつじゅん）状態をつくって傷をおおう被覆材が開発されてきました。湿潤状態では細胞は生き生きと増え、けがでえぐれた部分も埋めて皮膚がおおわれていきます。そして、かさぶたができた傷よりもきれいに治ります。

○けがをしたとき

出血している場合には、きれいなガーゼやタオルでしっかりと抑えて止血をします。その後に水道水できれいに洗浄をしてください。小さなけがやすり傷の場合、被覆材はドラッグストアでも購入ができるようになっていますので、ご自宅でも処置が可能です。

しかし、深い傷や出血が多い傷、痛みや腫れがおさまらない傷、動物に咬まれた傷や砂や土が入った傷などはご自身で判断せずに必ず医療機関を受診してください。



お客様の課題解決のお手伝いを
「誠心誠意」対応いたします。



FUJITSU パートナー

扶桑電通株式会社

■青森営業所

青森市長島二丁目13番1号
TEL. 017-775-2031(代) FAX. 017-774-4720

■八戸営業所

八戸市三日町2(青銀明治安田生命ビル)
TEL. 0178-44-1855 FAX. 0178-44-8494



《ホームページアドレス》
<http://www.fusodentsu.co.jp>